

1 12月以降の気象経過(図1)

<12月>

気温は平年よりもやや高く、日照時間も平年より多くなり、降水量は平年より少なくなりました。(12月の平均気温:平年差+0.7℃, 日照時間:平年比107%, 降水量:平年比80%)

<1月> 高温・多雨傾向

気温は平年よりも高く、日照時間は平年より少なく、降水量は1月29日に豪雨があったことから平年よりかなり多くなりました。(1月の平均気温:平年差+2.1℃, 日照時間:平年比83%, 降水量:平年比219%)

<2月上旬>

気温は平年並、日照時間は平年並、降水量は平年よりかなり少なくなりました。(2月上旬の平均気温:平年差+0.5℃, 日照時間:平年比98%, 降水量:平年比15%)

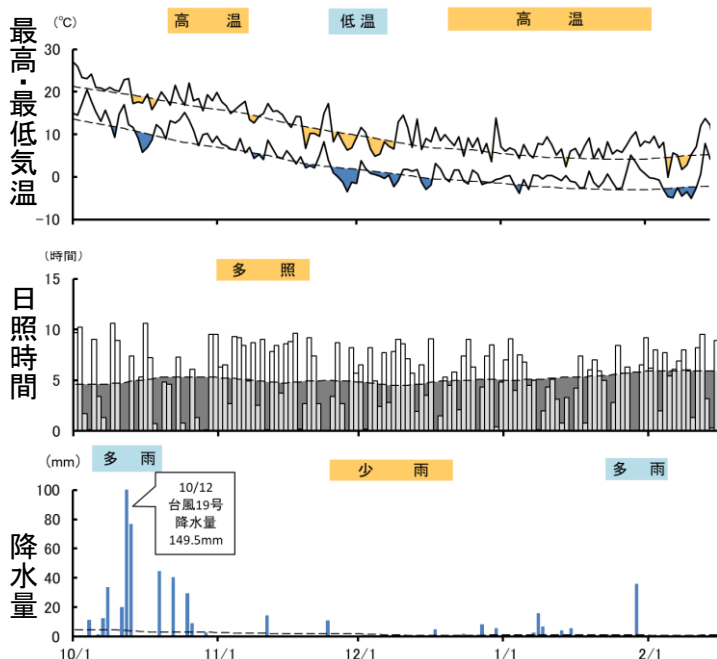


図1 気象経過(アメダス石巻) ※ 点線は平年値

2 生育調査ほの生育状況

(2月10日現在, 表1, 次頁写真)

- ◆ 特に天候不順もなく、生育は順調に進んでいますが、播種遅れから生育量は全体的に少ない傾向です。
- ◆ 草丈は、全ての調査ほで平年よりも短くなっています。
- ◆ 茎数は、全ての調査ほで平年よりも少なくなっています。
- ◆ 幼穂長は、小船越のシラネコムギほ場以外において確認されていますが、平年よりも小さい傾向です。

表1 生育調査ほ調査結果(2月10日調査)

品種	調査ほ (旧市町)	播種日(月日)			草丈(cm)			茎数(本/㎡)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
シュンライ	神取 (桃生)	11/02	+13日	+13日	5.6	-7	-6	349	37%	76%	0.6	-0	-0
ミノリムギ	高須賀 (桃生)	11/01	+13日	+11日	8.8	-5	-3	196	30%	42%	0.3	-1	-1
	真野 (石巻)	11/17	+22日	+25日	7.1	-4	-3	268	54%	59%	0.2	-1	-1
ホワイトファイバー	水沼 (石巻)	11/08	/	/	7.0	/	/	376	/	/	0.5	/	/
シラネコムギ	小船越 (河北)	11/09	+8日	+12日	7.1	-7	-5	168	32%	32%	-	-	-
	太田 (桃生)	11/02	+7日	/	9.6	-3	/	596	68%	/	0.2	+0	/

※ 平年差・比は過去5か年の平均値との比較。播種日の+は遅い、-は早いことを示す。

※ 水沼ホワイトファイバー調査ほは調査2年目、太田シラネコムギ調査ほは調査5年目のため平年差・比は記載しない



3 今後の管理

今年は播種遅れから生育量が少ないため、生育状況やほ場条件を確認しながら麦踏み・株直し追肥を行いましょう！

- (1) 排水対策 ～ 融雪や降雨によるほ場の停滞水を速やかに排出することが重要です～ 暗きよが閉じているほ場がないか、再点検しましょう。また、明きよの手直しを行いましょう。
- (2) 麦踏み ～ ほ場が乾いている時に、茎立ち前までに行いましょう！～

- ◆ 麦踏みは、融雪後、茎立ち前までに行いましょう。
- ◆ 土壌が湿った状態で麦踏みを行うと、土壌が固く締まって根の伸長阻害や排水性悪化の原因となります。作業は、必ずほ場が乾いた状態で行うようにし、ほ場が乾かないうちに無理に行わないようにしましょう。
- ◆ 湿害によって葉の黄化や生育量不足が著しい場合や、鳥類による食害が見られる場合には、効果が十分に得られないので、麦踏みを行う必要はありません。



- (3) 追肥 ～ 幼穂長を確認し、適期追肥に努めましょう！～

① 株直し追肥 … 葉色の回復、茎数の増加

- ◆ 融雪後の生育量が小さい場合(㎡当たりの茎数が400本以下、次ページ図2参照)や、葉の黄化が著しい場合などに、N(窒素)成分で1～2kg/10a程度施用します(表2)。茎数が多く、葉色の低下も見られないほ場では不要です。
- ◆ 鳥類による食害の著しいほ場では、融雪後ほ場に入れるようになったら新葉の生育促進のため株直し追肥を行いましょう。施用量はN(窒素)成分で1kg/10aが目安です。



表2 追肥の施用時期と施用量の目安

追肥の種類 (生育ステージ)		株直し追肥 (融雪後)	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目的		茎数の増加 葉色の回復	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大 麦	時期	2月	2月下旬～3月中旬	4月下旬	硬質麦防止のため 実施しない
	10a当たり 施用量		窒素成分1～2kg (硫安5～10kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	
小 麦	時期	2月	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	10a当たり 施用量		窒素成分1～2kg (硫安5～10kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	

※ 時期は平年の場合の大よその目安であり、実際には現地ほ場の幼穂長を見てから追肥時期を判断すること。

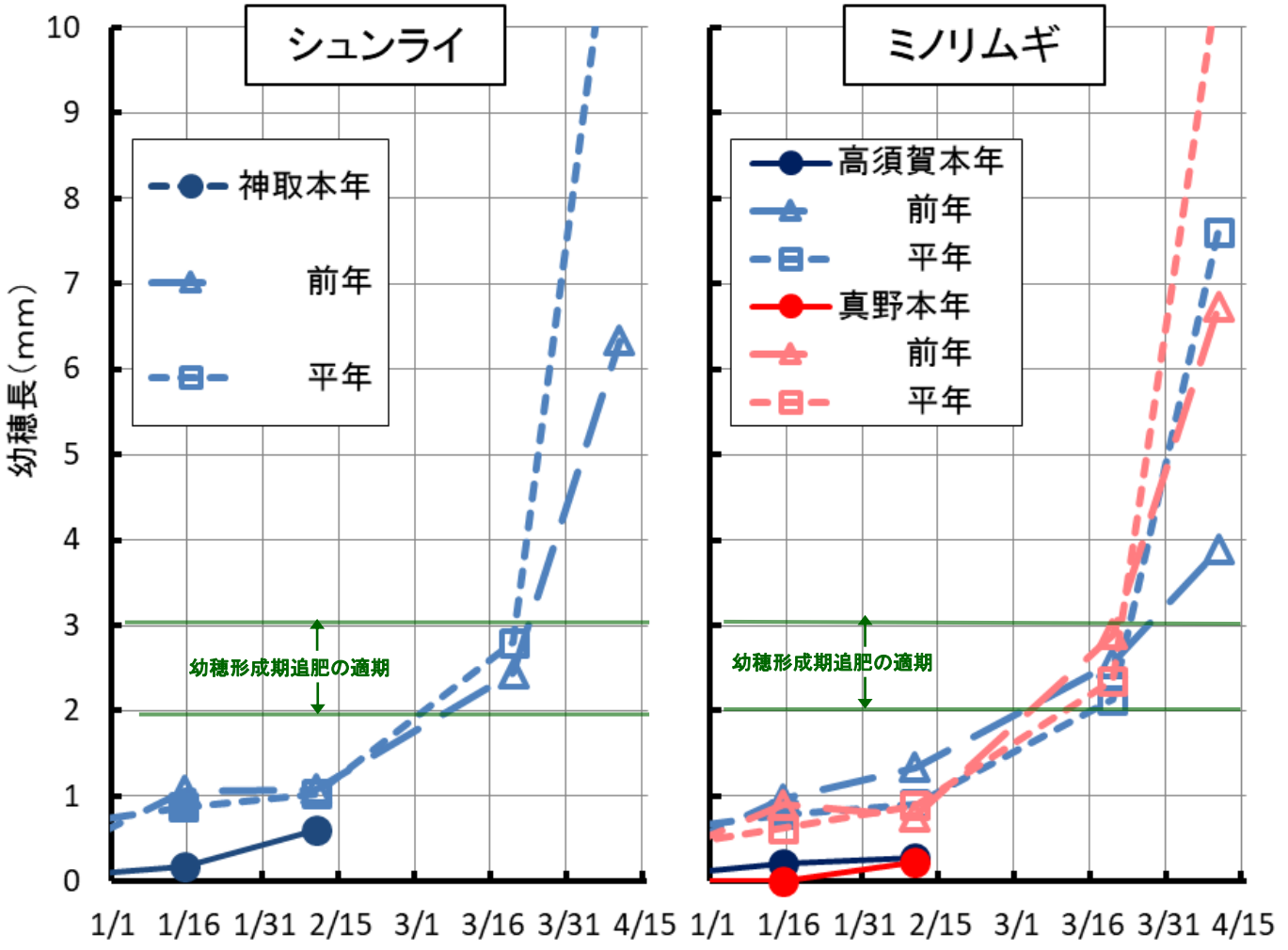
② 幼穂形成期追肥 …… 穂数の増加



- ◆ 幼穂長2~3mmが目安です。生育調査ほではシュンライ等(3月上~中旬) ミノリムギ(3月中旬~), シラネコムギ(3月下旬~)と見込まれます。大麦, 小麦ともN成分で2~2.5kg/10a程度施用します(表2, 図3)。
- ◆ 麦類は幼穂長が2mmを超える頃から茎立ちし, 幼穂や節間の伸長が急激に進むため, この頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招きます。その一方で, 過剰施用は節間伸長を助長し倒伏の原因となるので, 適期・適量施用に努めましょう!



図2 茎数の目安 (シュンライ, 条間30cmの例) 50cm



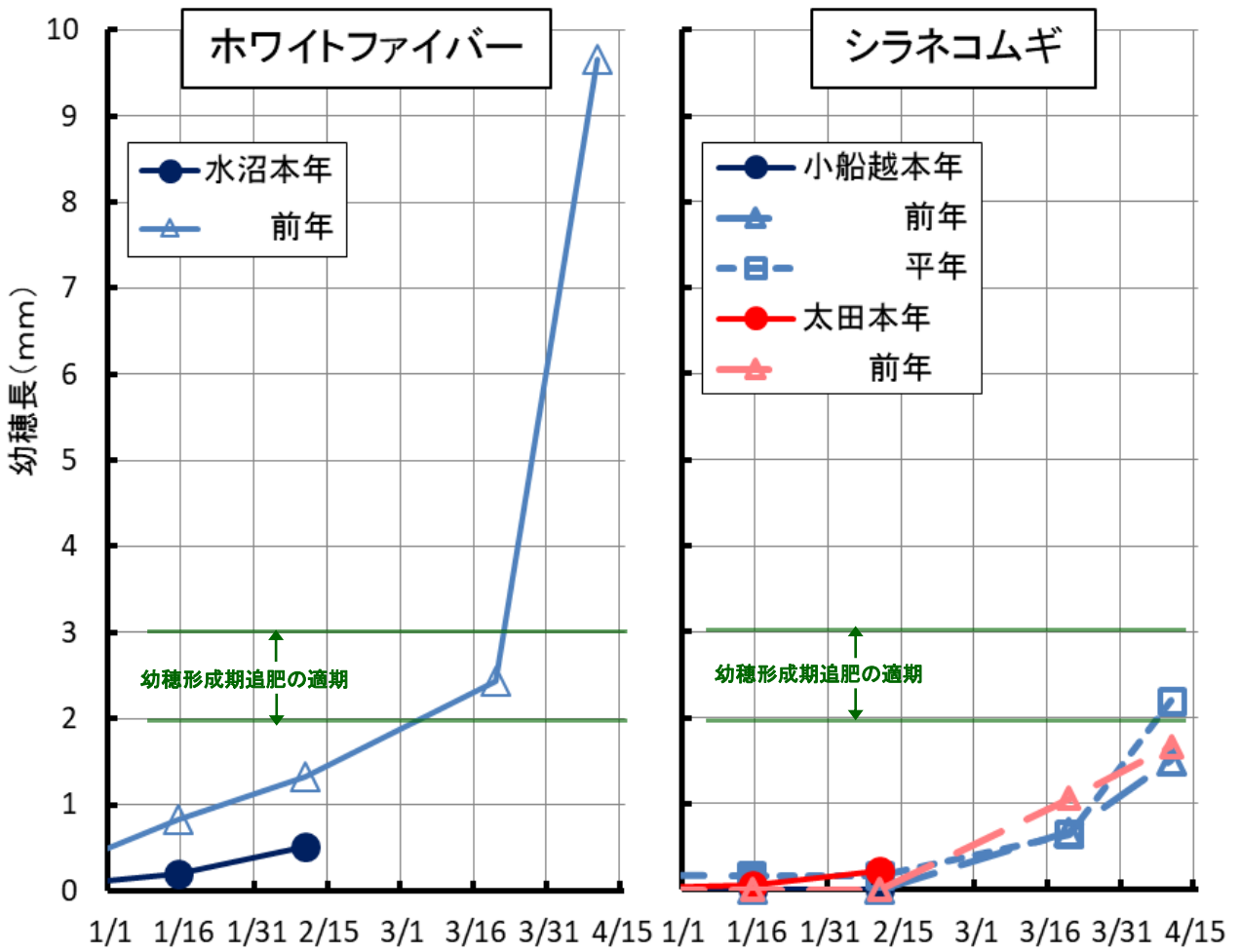
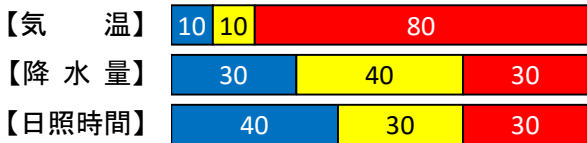


図3 生育調査ほにおける幼穂長の推移

1か月予報 (2/22~3/21)
 仙台管区气象台 2月20日発表

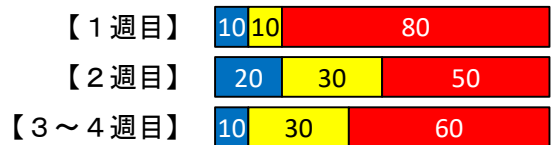
期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い